



あまてらすおおみかみ 天照大御神の生誕

伊邪那岐命が、共に国生み神生みをした妻の伊邪那美命に死別されたあと、御心や身体を清め正そうとして、筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原に行かれ、川の中で禊をされたときのことでした。

身につけていた物を投げ棄てる度ごとに、思い悩むことを遠ざける神々が生まれ出ました。

流れのほどよい川の中瀬で全身をすすがれると、大きな渦を起こさせた神々が現れ、つづいてその渦を直す神々がお出ましになりました。

水底ですすがれ、水の中ほどですすがれ、水面近くですすがれると、それぞれのところで、身体や心を清める神々が生まれました。

ここで、左のお目をお洗いになると、天照大御神がお生まれになりました。右の目をお洗いになると月読命、お鼻をお洗いになると須佐之男命がお生まれになりました。

伊邪那岐命は「生みの終わりに三柱の尊い子を得た」とたいそう喜ばれ、天照大御神に珠の首飾りをゆらゆらとゆり鳴らして授け、「高天原を治めるよう」お言いつけになりました。

○禊とは、身体を洗いますぐことで、水の靈力に触れ、身も心も清らかにすることです。

○天照大御神さまは、禊がどんな段階になった時お生まれになりましたか。